第41回

診療所事務長の仕事術

診療所事務長はどんな仕事をしているのか。そんな疑問に、一般社団法人診療所事務長会のメンバーが答える。第41回目は、泉州メンタルクリニックOasisの森昭久事務長だ。

事業拡大を視野に入れた分院展開プロジェクトを主導

森　昭久氏

医療法人悠和会
泉州メンタルケアクリニックOasis
事務長

もり・あきひさ●大学卒業後、医療法人に就職。介護老人保健施設や病院で約7年半、相談員として勤務した後、別法人に転職。診療所での事務職、ケアプランセンターでの介護支援相談員、病院での地域連携相談員などを経て、2020年11月より現職

大阪府岸和田市にある医療法人悠和会浜中医院の分院として心療内科、神経内科、精神科を標ぼうする当院も、開院から約２年が経過しました。経営も軌道に乗ってきたことから、2022年夏から新しい分院プロジェクトも始動。23年１月にオープンしました。

新分院のコンセプトは「精神疾患のリハビリに注力することで患者さんの社会復帰率を向上させること。ひいては、国内の生産性を上げていくこと」としました。

というのも、当院は40代前後の働き盛りの患者が多く、治療中に休職される方もいます。復帰の際、本来は整形外科と同様にリハビリも必要ですが、それをせずに社会復帰して再発してしまうケースは少なくありません。そこで新分院では、診療所だけでなく、リハビリを行うリワーク施設の併設が望ましいと考えたのです。

そのため、開業地の選定もリワーク施設併設を前提に、ターゲット層を働き盛り世代中心に絞り、アクセスの利便性、通行人の量などから候補地を探しました。住宅街、オフィス街、繁華街が混在する「新大阪駅」近辺に絞り込み、テナントを探しました。具体的なエリアが決まったので、開設条件も、働き盛りが受診しやすいようにと土曜日を全日診療とし、代わりに、平日を１日休診にすることで決定へ。

その後苦戦したのが、管理医師の招へいです。勤務医のコネクションを通じて打診しても、「管理医師は荷が重い」「医局を離れたくない」「病院と比較すると拘束時間が長く条件面の折り合いがつかない」などの理由で断られてしまいました。建物はできているのに管理医師が見つからず、胃の痛い日々を過ごしました。

最終的には医師紹介会社を通じて見つけましたが、テナント探しや内装工事など場所優先で進めてしまったことは反省材料です。次に分院展開の機会がめぐってきたときは、既存診療所で院長候補となる勤務医を事前に雇用したうえで進めたいと思っています。

何とか管理医師も見つかり、昨年12月ごろからはオープニングスタッフの研修を進めました。研修は当院で行うことにして、当院のスタッフから、電子カルテ操作や患者来院から会計までの流れ、診療報酬等の制度関係の説明などをしてもらっています。

当院の開設当時は私がすべての研修を担当していましたが、２年経過してスタッフが育ってきた結果、今回はスタッフに研修を任せられるようになったとも言えます。今後の分院展開の際にも、研修はスタッフに任せていこうと考えています。

今回の分院展開を振り返り、最終的な決済は理事長判断となりますが、大まかな部分を私が担当することで、理事長の負担を軽減できたのではないかと思っています。

もちろん、私一人ではなく、「建築関係」「申請関係」「インターネット関係」とテーマごとに準備を進める過程で外部会社に依頼し、研修のように院内のスタッフの力も借りましたが、こうして院内外の力を活用しながらプロジェクト全体を取りまとめていくのも、事務長の仕事だと考えています。

一般社団法人診療所事務長会
https://cl-manager.com/
2016年1月発足の診療所事務長の会。診療所事務長や院長などが集まり月１回の勉強会を開催しているほか、日々の仕事についても互いに助け合っている

(C) 2023 日本医療企画